

水産研究部企画調整事業

日高悦久・伊藤龍星

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」に係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム及び浅海・内水面グループの浅海チーム、内水面チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図る。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案する。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実に努める。

3. 研修事業

国内外からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図る。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズに迅速、的確に対応し、効率的な調査・研究活動を推進することにより、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき会議を運営した。会議は原則として月 1 回の開催を計画した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議（メンバー：企画指導担当総括及び浅海チームリーダー）及びセンター所属長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループの研究予算等の調整と運用を行った。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

研究課題の推進に際し、必要な助言、評価及び検討を行うことにより、研究レベルの向上と効率化を図るため、設置要綱に基づき委員会を運営した。

4) 大分県農林水産部試験研究外部評価委員会 専門部会

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究推進本部設置要綱並びに試験研究評価実施要領に基づき、学識経験者等の外部委員から構成される水産研究部外部評価委員会専門部会を開催した。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した。さらに、一般消費者を対象に、豊かで安全・安心な食を提供するための研究機関の取り組みを紹介することを目的にセンター本部が開催した研究紹介で水産関係の試験研究の取り組みを発表した。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、平成 25 年度事業について、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA-NEWS を編集、発行した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究者と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

開かれた研究機関として機能することを目的として、視察、見学者への説明や案内等を行った。

また、必要に応じ、部門ごとの研修、国外からの現地視察や実習等にも対応した。

事業の結果

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を12回開催し、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の予算を取りまとめた。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

2014年6月9日、6月11日に委員会による部・グループのヒアリングを開催し、評価、助言、指導を行った。

4) 大分県農林水産部試験研究外部評価委員会 専門部会

2014年6月23日に水産研究部外部評価委員会専門部会を開催し、新規6課題、2013年度終了課題9課題について技術的なアドバイスや意見を受けた。

（表1-1、表1-2）。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

2015年1月29日、30日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部8課題、浅海・内水面グループ5課題、水産業普及指導員3

課題の研究発表があった（表2）。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

水産研究部、浅海・内水面グループの平成25年度の事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

本年度は、6月に第39号、1月に第40号を編集、発行し、県内外の関係機関に配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

2014年5月21日（水産研究部）、6月4日（浅海・内水面グループ）に連絡会議を開催した。

普及指導員から要望が出された事項については、各チーム・担当において対応した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

2014年6月3日に北海道沿岸地域、6月6日に佐伯市沿岸地域、6月17日に豊前海沿岸地域、6月24日に東国東・別府湾沿岸地域を対象としてそれぞれ会議を開催した。

表3に会議で報告した研究情報を示す。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

小学生の団体見学を中心に、多くの視察、見学及び現地実習等に対応した。

表4に視察受入実績を示す。

また、赤潮、魚病、水産加工等各担当ごとのテーマ別研修も実施した。

表 1-1 大分県農林水産部試験研究（水産研究部）外部評価委員会名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
九州大学大学院農学研究院資源生物科学部門	教 授	松山 倫也	学識経験者
(独) 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部	部 長	北村 章二	学識経験者
(独) 水産総合研究センター増養殖研究所 育種研究センター	センター長	薄 浩則	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産部試験研究（水産研究部）外部評価委員会専門部に付託した研究課題

	研究課題名	担当チーム	研究期間
新規課題	ヒラメの高水温耐性品種の作出（Ⅲ期）	栽培資源チーム	H27～H29年度
	カボスがつなぐブランド魚創出事業	養殖環境チーム	H27～H29年度
	赤潮早期予測・早期対策実証事業	養殖環境チーム	H27～H29年度
	養殖ヒジキの品質向上と養殖種苗供給技術の確立（Ⅱ期）	浅海チーム	H27～H29年度
	タイラギ増殖手法開発	浅海チーム	H27～H29年度
	大分農産品を利用した高品質で抗病性を高める飼料開発	内水面チーム	H27～H29年度
終了課題	沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発	栽培資源チーム	H24～H25年度
	タチウオ資源回復推進に関する研究	栽培資源チーム	H21～H25年度
	基盤整備、栽培漁業、資源回復の促進に関する基礎調査	栽培資源チーム	H23～H25年度
	先端技術を利用した養殖魚の病害防除法の開発	養殖環境チーム	H23～H25年度
	放流対象魚介類（ナマコ）の種苗生産の研究	浅海チーム	H23～H25年度
	ヒジキ資源管理手法の開発	浅海チーム	H23～H25年度
	豊前海におけるアサリ資源回復に関する調査研究	浅海チーム	H23～H25年度
	地域重要魚介類の資源動向及び回復施策に関する研究	浅海チーム	H23～H25年度
資源、環境に関する基礎データの収集	浅海チーム	H23～H25年度	

表 2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

発表課題名	発表者
ヒラメのエドヅェラ症に対する過酸化水素不活化ワクチンの試作	養殖環境チーム 主任研究員 木本 圭輔
養殖漁場低塩分化によるヒラギガイ大量斃死の対策について	南部振興局 技 師 中里 礼大
ヒラメ種苗のペコ病対策試験	栽培資源チーム 研究員 堀切 保志
製造条件の異なるカボス果皮を投与したブリの品質比較	養殖環境チーム 主任研究員 木敷 仁和
入津湾アサリ養殖収支シミュレーションと課題	南部振興局 主 査 片野晋二郎
カハギ飼料へのウミトナリ添加量の検討	養殖環境チーム 研究員 川上 恵
アオ・クオマ種苗の量産に向けて	浅海チーム 研究員 酒井真梨子
～アオ・クオマ種苗生産技術を活用したアオ・クオマ種苗生産結果の検証～	
クルマエビ養殖池のグリーン海水を利用したアサリ浮遊幼生飼育試験	浅海チーム 研究員 山田 英俊
香々地地先における建材ブロック設置による天然ヒジキ増殖試験	北部振興局 主 査 西山 雅人
入津地区におけるクルマエビの移動と成長	栽培資源チーム 研究員 亀田 崇史
安定してアサリ天然稚貝を集積する手法の検討	浅海チーム 研究員 崎山 和昭
大分県沿岸域におけるマダヒ卵の出現と沿岸に加入した当歳魚のふ化	栽培資源チーム 研究員 中尾 拓貴
1966～2013年における豊後水道の表層水温長期変動について	栽培資源チーム 研究員 安部 洋平
<i>Karenia mikimotoi</i> 曝露によるアサリ類への毒性評価	養殖環境チーム 研究員 野田 誠
本県のカサゴの現状と被害防除対策	内水面チーム 主幹研究員 樋下 雄一
2014年夏季に大分県北部海域で確認された渦鞭毛藻 <i>Karenia digitata</i> の出現状況と毒性	浅海チーム 主幹研究員 岩野 英樹

(注) 表は発表順である。連名発表は筆頭者のみ記載した。

表3 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績と報告した研究情報

開催日（場所）	対象地域	研究情報・報告者
2014年6月3日 （臼杵総合庁舎）	北海部海域沿岸	「イセエビ成熟度調査」 栽培資源チーム 研究員 中尾 拓貴
		「今年は有害赤潮の発生に注意！」 養殖環境チーム 研究員 野田 誠
2014年6月6日 （佐伯総合庁舎）	佐伯市沿岸	「イセエビ成熟度調査」 栽培資源チーム 研究員 中尾 拓貴
		「養殖ブリ類のα溶血性レンサ球菌症における非凝集株の出現」 養殖環境チーム 専門研究員 福田 穰
2014年6月17日 （浅海・内水面グループ）	豊前海沿岸	「大分県豊前海域におけるナルトビエイの駆除状況」 浅海チーム 研究員 崎山 和昭
		「アサリ吸引集積装置を用いた移植の試み」 浅海チーム 主幹研究員 田村 勇司
		「赤潮・貝毒の現状について」 浅海チーム 主幹研究員 岩野 英樹
2014年6月24日 （国東総合庁舎）	東国東・別府湾沿岸	「キジハタの種苗放流による資源造成の取り組み」 浅海チーム 主任研究員 畔地 和久
		「アオナマコ及びクロナマコの成熟度調査」 浅海チーム 研究員 酒井真梨子
		「赤潮・貝毒の現状について」 浅海チーム 主幹研究員 岩野 英樹

表4 視察等受入実績

区分	水産研究部		浅海チーム		内水面チーム	
	件数	人数(人)	件数	人数(人)	件数	人数(人)
視察・見学	9	189	9	103	36	224
うち、国外※	0	0	1	25	0	0

※韓国

(注) 文書等により依頼があったもので、概数である。